



大成区東部町内会では年々高齢化が進み、災害時の避難等において「町内会として何ができるのか、何をしなければいけないか」を話し合い、今年1月に自主防災部を結成。このたび自治総合センターのコミュニティ助成事業(宝くじ助成金)の対象となり、災害時に必要となるテントやリヤカー、停電用発電機のほかストーブ、また炊き出し用にガス炊飯器など27種類の備品の整備をしました。

早速この備品を使用して、8月9日(土)東部町内会では自主避難訓練及び炊き出し訓練を実施しました。地震発生を想定し、実際に車から拡声機で津波の危険を呼びかけ、海岸沿いに住む高齢者の戸別訪問・避難誘導を行い、その際歩行が困難な方のためにリヤカーでの搬送も行いました。35人の参加者が集ったこの日「これからも一人ひとりが役割を果たし、この地域を守っていきましょう」と北川東部町内会長から挨拶がありました。

この地区では、15年前の北海道南西沖地震災害で1名の尊い命を亡くし、その悲しみは今も癒えることはありません。だからこそ助け合い、地域と地域の人を守るのは自分自身であることを痛感し、改めて、防災に対する意識の向上を図りました。

編集後記

▼今年もせたな町では、わたためがして大成を皮切りに、せたな漁火まつり、きたひやま夏まつりと、三大夏まつりで燃え上がりました。わたためがして大成では、真夏の素晴らしい天候に恵まれましたが、せたな漁火まつりでは、スコールを思わせる雨。しかしスタッフの熱意が通じたのか午後3時過ぎには雨が止み、打ち上げ花火は予定通り無事に行なわれました。そして、きたひやま夏まつりでは、天候に恵まれたものの夜になると肌寒く、秋の訪れを感じながら、過ぎ行く夏を最後まで思いっきり楽しみました。これからは、いよいよ秋まつりですね。▼9月は、防災月間ということでした。「防災」を特集してみました。その名の通り「防災」とは災害を防ぐことを意味します。15年前、一瞬ですべてを奪った北海道南西沖地震。町の復興のために私たちは手をつなぎ心をつなぎ支えあいました。あれから15年が過ぎ、災害を知らない子どもたちのためにも、一人ひとりがもう一度、防災に努め、この町を大切に守らなければいけません。

(乾・藤谷・稲船)

